

GUNMA UNIVERSITY
GRADUATE SCHOOL OF
HEALTH SCIENCES

群馬大学 大学院 保健学研究科

2026



Contents

大学院生からのメッセージ	4
修了生からのメッセージ	8
博士前期課程の特徴	10
博士前期課程各ユニットの特色	11
専門看護師（CNS）プログラム	12
専門職養成プログラム	14
パブリックヘルス学環	15
博士後期課程の特徴	16
博士後期課程各領域の特色	18
過去3年間の修了生就職先リスト	19
様々な保健学研究科の様子	20
所属教員と研究テーマ	22
看護学領域	22
生体情報検査科学領域	25
リハビリテーション学領域（理学療法学）	26
リハビリテーション学領域（作業療法学）	27
出願から修了までのプロセス	29
修学支援・教育支援・修了後の進路	30
募集人員・入試日程	31
アクセス・問合せ	32



群馬大学大学院 保健学研究科のビジョン

ビジョン: 世界トップレベルの医学保健学研究教育機関を目指し、誰もが安心・安全な活力のある社会を実現する。

ミッション: 社会課題に地域や多職種と連携し解決する国際的視野をもつ 社会の発展に貢献する保健学人材・研究者リーダーの育成

命と生活に根ざし、幸福と未来を支えるライフケアの研究

研究力=
新しい価値を生む力
Innovation

グローバル
Global

海外トップレベル大学交流
リーズ大学、ワシントン大学、フィリピン大学、モンゴル国立医科大学、GFLの活用、研究留学

データサイエンスAI
Data Science AI

医療保健 X AI
高度保健学人材開発センター
パブリックヘルス学環
医療デジタル応用保健学

リーダーシップ
Leadership

地域・多職種との連携
多職種連携教育WHO協力センター
多職種人材育成のための医療安全教育センター
共創の場 防災拠点事業
病院連携・地域連携・協議会連携

これからの日本の発展に**研究力、グローバル力、AI活用力、リーダーシップ力**は必須



保健学研究科長
齋藤 貴之

保健学研究科長挨拶

Gunma University aims to be a world-class Health Science University.

私たちの保健学研究科は、日本有数の大規模な保健学の大学院です。世界トップレベルの保健学の研究・教育機関を目指し、保健学を通じて社会を変革していきます。保健学は疾患予防や健康増進について情報や手段を提供し、社会全体の健康に貢献することができます。さらに、保健学は、社会的・文化的・経済的な要因が健康に与える影響を探究し、より公正で健康的な社会を目指すとともに、命と生活に根ざし、幸福と未来を支える「ライフケア」の在り方を研究します。現代は、AIをはじめとする社会の進化や変化が急速に進んでいます。このような変化に対応するためには、学び続けることが不可欠です。学びは、個人や社会の成長や進歩、そして個人の幸福に欠かせない要素です。大学院で、一生役に立つ生きる学び、知の技法を習得し、自己実現に向けて道を切り拓いてください。私たちは高い倫理観と豊かな学識に基づき、実践力を備えた高度専門職業人リーダーや創造的能力を備えた研究者リーダーを育成します。看護学、生体情報検査科学、リハビリテーション学の各領域において研究の実績を活かし、先端的で特色ある研究を推進し、新たな保健医療技術の開発や保健医療水準の向上を通して、社会の発展に貢献するリーダーを育成します。博士前期課程では研究対象課題によって「基礎保健学ユニット」、「応用保健学 ユニット」、「地域・国際保健学ユニット」を配置して職種横断型かつ全人的アプローチの研究・教育体制を構築しています。博士後期課程では、専門領域の研究を深化させるために、職種に応じた3領域「看護学領域」、「生体情報検査科学領域」、「リハビリテーション学領域」に分けたカリキュラムを組み立てています。

保健学研究科の重点戦略は、各領域の専門の研究を基礎にした3つの柱です。国際化（Global）、データサイエンスAI（Data Science AI）、地域病院連携・多職種連携（Leadership）です（下図）。専門の研究に加えて、他の大学院にはない強みを活かし、自分自身の能力を開花させるための環境を検討・計画して皆様に提供します。高度保健学人材開発センターの経済支援、パブリックヘルス学環による社会実装、海外留学、企業と連携したデータサイエンス教育、WHO研修も用意しています。是非、挑戦してください。

私自身も国内の研究所や海外留学で研究に触れる機会を得ることができました。今でも、それはかけがえのない財産です。大学院の中で一流の研究に触れ、国際的に活躍できる研究者や医療実践者を目指してください。私たちが提供する環境で、皆さん自身の能力を開花させ、世界を変えるリーダーになってください。私たちはあなたの成功を全力で支援します。

大学院生からのメッセージ

看護学領域

博士前期課程 学際性を活かし、独創的な研究をチームとして創作し社会貢献したい



菅沼 華海さん
指導教員：内田 陽子

大学院進学の動機

私は、学部頃から研究に興味があり学部から大学院にそのまま進学しました。学部の講義では納得できないような問題を自身でより追及したいと思い進学を決意しました。看護師や保健師として働くことも迷いましたが、ストレートで進学をすることで自由な時間で勉強や研究に専念することができることを強みと思い入学しました。

将来の目標

修士課程を修了後、さらに博士後期課程進学を検討しております。修士課程在学中に、これまでの技術や方法、在り方の限界を打破し社会貢献に繋げることの重要性を学び、さらに追及し続けたいと考えています。研究を行うということは、私一人の力では難しいため、研究チームとして、成果の創出を成し遂げていきたいです。

大学院進学後のライフスタイル

クリニックで看護師として週3日程勤務、それ以外の日は朝から1日研究活動を行っています。研究は多くの時間と労力を費やすからこそ、勤務日は早朝やクリニックでの休憩時間、夜間や休日を活用し研究時間に充てています。また、TAや学校バイト等を行い、様々な角度から研究のアイデアを見つけ、指導教員に指導していただいています。

スケジュール（平日）

8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00
研究・事前調査			指導教員、先輩方との Meeting		研究準備	介入研究				データ整理		

博士後期課程

早産した両親やご家族、看護の現場に役立つ研究をしたい！

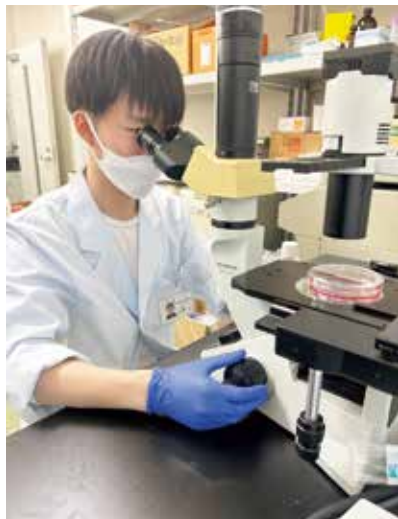
私は、早産した母親のメンタルヘルスにむけた看護実践や研究に取り組んできました。博士後期課程に進学したのは、早産した母親のメンタルヘルスのための看護介入モデルを開発したいと考えたからです。入学してからの1年間、自分の肌感覚での考えを、先生方や院生仲間に、根拠をもって伝えることの難しさと大切さを学びました。根拠をもつために、国内外の文献からすでに明らかになっていることは何か、確認・整理してきました。その過程を通し、今研究すべき課題が見えてきました。「計画的・整理整頓」が苦手な自分には、研究と仕事・家庭の両立は試行錯誤の連続ですが、研究での小さな発見や、自分の成長を感じる瞬間は喜びで充実した日々です。



深澤 友子さん
指導教員：新井 陽子

生体情報検査科学領域

博士前期課程 論文の投稿や学会発表などなかなかできない経験をしたいです



川又 涼さん

指導教員：多胡 憲治

大学院進学の動機

大学院進学理由は、研究をさらに充実させたいという思いからです。学部で得た知識や経験をベースに、自分の研究スキルを磨きより高い知識を身に付けたいと思い、入学を決めました。日々、研究や課題に挑戦し、新たな発見をしながら学術や社会に貢献する力を育てたいと考えています。

将来の目標

臨床検査技師として病院や保健所に就職する以外に、博士課程に進んで更に研究を続けることや医薬品企業等での研究職など様々な進路を考えています。現在行っている、研究やラボセミナー、学会での発表で得られた経験を活かして様々なことにチャレンジしていきたいです。

大学院進学後のライフスタイル

研究がより主体的になり、時間管理の重要性を意識するようになりました。実験計画やデータ解析を行い、専門的な講義などで足りない知識を深める日々です。日中は細胞を用いた実験・研究を行い、夕方から講義を受けるような形になっています。特に今は、計画的な実験が重要だと、細胞を扱ううえで非常に実感しています。また、TAをしている際は学部生に手技をわかりやすく教えられるように心がけています。

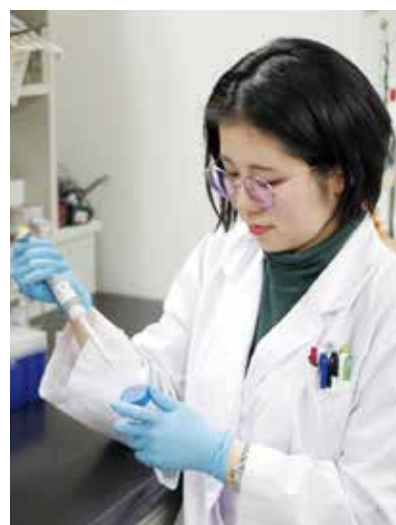
スケジュール（平日）

9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00
研究			休憩	研究・Lab セミナー					講義		帰宅	

博士後期課程

大学院で研究を深め、将来は研究職に進み社会に貢献したいです

博士後期課程に進学した理由は、実験を通じて得られる新たな発見に魅了され、研究を深く追求したいと考えたからです。現在、大西先生の指導のもとで遺伝子改変マウスを用いた研究を行い、研究室の仲間と協力し合いながら実験を進めています。また、次世代グンマ創発的博士人財インダクションプログラム（Next-GIP）に採択され、経済的支援を受けつつ、必要なスキルを身につけるための講義も受けており、非常に充実した日々を送っています。修了後は、研究職に進み、得た知識と技術を社会に貢献できるよう努力したいと考えています。



尾池 恵摘さん

指導教員：大西 浩史

リハビリテーション学領域（理学療法学）

博士前期課程 作業療法の楽しさや魅力を学生に伝えられる教員になりたいです



丸橋 篤人 さん
指導教員：山上 徹也

大学院進学動機

1番の志望動機はキャリアデザインです。私は作業療法士という仕事が大好きです。しかし、この先も作業療法士を続けていくことに不安があり、何か強みが必要だと思ったことが進学を決めた理由です。実際に進学してみて、研究に関する知識やコミュニケーション能力に必要な論理的思考力が身についたと感じております。

将来の目標

将来は作業療法に関する研究を続けながら、教員になりたいと考えております。大学院で培った論理的思考力を活かして作業療法士という仕事の楽しさや魅力を学生に伝えていきたいです。また、研究を通して作業療法の強みや役割を社会に発信し、支援を必要とする方々に作業療法が届くよう貢献していきたいと考えております。

大学院進学後のライフスタイル

日中は病院で働き、夜間に講義と研究活動を行っています。私には2人の子供がいるため、時間に減り張りをつけて生活しております。忙しさもありますが、家族、職場のスタッフ、山上先生、ゼミの先輩方にご支援いただき、仕事・育児・学業を行えています。大学院での学びは楽しく、充実した日々を送ることができています。

スケジュール（平日）

9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00
病院で臨床業務									講義・研究作業		帰宅	

博士後期課程

臨床と研究に携わり、成果を患者さんに還元できる医療者を目指す

博士後期課程に進学した理由は、自らの専門性に箔をつけ、医療者としての価値を高めたいと考えたからです。現在は、間質性肺炎や慢性閉塞性肺疾患の患者さんを対象にデータを分析し、評価法の確立や呼吸リハビリテーションの有効性を検証する研究を進めています。特に、研究活動と臨床業務を両立する中で、実践的な課題を研究に反映できる点に大きなやりがいを感じています。今後は博士課程修了後も臨床と研究の両面から、医学的視点を取り入れた理学療法の発展に貢献したいと考えています。



古田島 郁弥 さん
指導教員：久田 剛志

リハビリテーション学領域（作業療法学）

博士前期課程 自分の将来の可能性を広げるための、思考力を身につけたいです



吉澤 陽菜 さん

指導教員：李 範爽

大学院進学の動機

将来の働き方の幅を広げるきっかけにしたいと思い、大学院進学は在学時から検討していましたが、現場に出て気がつく視点もあると助言を受け、まずは就職を選択しました。働き出してから、臨床現場で経験を積み上げるだけでなく、知見を広げたり、エビデンスを蓄積したりする研究方法を学ぶことで医療人としてレベルアップしたい思いがさらに強まり、進学を決意しました。

将来の目標

臨床現場で、新しい情報も取り入れ、エビデンスに基づくより良い関わり方を共有・実践し、子どもたちや子どもを取り巻く環境面にアプローチしていきたいです。将来的には、臨床で身に付けた技術や経験、説得力をもって発信するための研究手法などの院での学びを活かし、発達障がい領域の作業療法の在り方を伝えられる人になれば嬉しいです。

大学院進学後のライフスタイル

仕事、研究、生活の3つのバランスの取り方が難しいと日々感じています。予定を詰め込みすぎると体調面に影響が出てしまうタイプなので、睡眠・休息時間は意識して確保するようになりました。先生方や家族含めて周りの人に協力してもらい、他の院生から良い刺激を受けながら、やりたいことに挑戦できています。

スケジュール（平日）

9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00
病院での勤務			休憩	病院での勤務					運転	面談・研究		帰宅

博士後期課程

作業療法の実践・教育・研究を通じて臨床に貢献したい

作業療法士として臨床に携わる中で、エビデンスに基づく実践の重要性を実感し、博士後期課程に進学しました。博士後期課程では主体的にテーマを設定し、新たな知見を生み出す難しさを感じますが、論理的思考を磨き、研究の独自性を深める過程にやりがいがあります。その一環として、学術的な発表にも挑戦しています。

現在は、eスポーツにおける体験と脳活動の関連を研究し、学会発表や論文執筆を進めています。仕事と学業の両立は大変なことも多いですが、研究成果が臨床に活かせる可能性を感じ、充実感を持って取り組んでいます。今後は、得た知見を臨床に還元し、作業療法や教育・研究の発展に生かしたいです。



西沢 祐亮 さん

指導教員：菊地 千一郎

修了生からのメッセージ

看護学領域



田中 亜紀さん

高崎市保健所 保健医療総務課
2024年博士前期課程修了
指導教員名：佐藤 由美

大学院での生活や研究テーマについて

勤務後の夜間や休日に、講義・ゼミに出席しました。研究テーマは、行政保健師が、健康課題や生活上の問題を抱えた個別事例を他者と共に支援する際、どのような意志決定プロセスを経て連携を成立させているのかを明らかにすることでした。

大学院での経験が、現職においてどの様に役立っていますか？

大学院での学びは、行政職員として、保健師として、双方の能力向上につながったと感じています。研究テーマの明確化やデータ分析で苦しんだ時期もありましたが、先行研究や他研究者との出会いに励まされ、先生方から熱いご指導をいただき乗り越えることができました。

論文作成を通じ、伝えたいことを整理して適切な言葉を選択する力や、それらを使い説明しきる力が身についたことは、行政において重要な文書作成能力や、様々な分野の人と共通理解を得るための説明能力の向上につながっています。複雑化した社会の中で、新しい問題、解決策を導き出すことが難しい課題もありますが、そこで役立つのは、研究で培った粘り強く考え続ける力であり、それは、この先も自分を支え続けてくれるものだと思います。

生体情報検査科学領域



永田 玲香さん

GEヘルスケア・ジャパン
2023年博士前期課程修了
指導教員名：松井 弘樹

大学院での生活や研究テーマについて

大学院の研究テーマは、「左室収縮能の保たれた心不全（HFpEF）の内臓脂肪における質的・量的異常に関する検討」です。大学院では、研究や大学院の講義を中心に、学部生の実習補助、就職活動、アルバイトにも取り組んでいました。

大学院での経験が、現職においてどの様に役立っていますか？

大学院時代に培った主体性が、現在の業務にも活きていると感じています。

学部生時代は決められたことに取り組む受動的な活動が多かったですが、大学院では自律的な行動が求められる場面が多く、自ら考えて行動するようになりました。また、研究と就職活動、病院実習を同時進行していたため、限られた時間の中で優先順位を決めて自主的に活動するようにしていました。

現職においても、個々の判断に委ねられるが活動が多いため主体性が求められ、大学院時代に培ったこの姿勢が、現在の業務にも大いに役立っています。

さらに、研究活動を通じて、状況に応じた柔軟な対応力も身につけ、業務を円滑に進めるうえで役立っていると感じます。

リハビリテーション学領域（理学療法学）



中俣 日向さん

医療法人五紘会東前橋整形外科病院・
理学療法士
2025年博士前期課程修了
指導教員名：田鹿 毅

大学院での生活や研究テーマについて

病院で理学療法士として働きながら、大学院に通っています。研究では、クロスカントリースキー選手の傷害発生状況や腰痛に関連する身体的特徴について調査しています。スポーツ現場での調査や論文作成など、充実した日々を過ごしています。

大学院での経験が、現職においてどの様に役立っていますか？

大学院での研究を通じ、臨床で生じた疑問の解決に向けて、既存の知見を調べる力や情報を吟味する力、研究方法を考案していく力が身についてきたと感じています。研究テーマに関する文献抄読を繰り返す中で、英文を含む論文に対しての苦手意識がなくなり、臨床場面でも文献検索を行うことが習慣化されました。また、研究の質を評価する視点が養われ、研究手法の理解も深まりました。加えて、現状では明らかになっていない課題を見出し、新たな知見を探求する意欲も高まり、現在は院内でも研究活動を行っています。これらは、臨床場面においてエビデンスに基づく質の高い理学療法の提供を目指す上で、非常に役立っていると感じています。

リハビリテーション学領域（作業療法学）



大月 千怜さん

介護老人保健施設アルボース・
作業療法士
2025年博士前期課程修了
指導教員名：三井 真一

大学院での生活や研究テーマについて

仕事をしながら保健学研究科に在学していました。卒業研究の続きを行いたいと思い入学しました。大学院では一夫一婦制のプレーリーハタネズミにおいて、つがい形成が物体認知にどのような影響があるかを研究していました。

大学院での経験が、現職においてどの様に役立っていますか？

仕事と大学院の両立には業務や研究を計画的に行うということが求められました。大学院入学後も業務量は変わらないため、優先順位を決めて効率的に業務を行い、残業時間を減らし、授業や研究の時間に当てていました。研究も時間は限られていたため、計画的に行うことが求められていました。実験が思うように進まないことも多々あったため、それを見越して計画を立てることの重要性を学びました。効率的に業務を行うことや計画的に行うことは今後の仕事にも役に立つかと思います。

また、現在の職場は研究も行っているため、今後は大学院での研究活動で学んだこと、経験したことを活かして研究活動に参加できればと考えています。

博士前期課程の特徴

近年、グローバルな感染症の拡大、高齢化社会、生活習慣病、医療者の地域偏在など、人々が健康を維持するための課題が急速に拡大しています。これらに対して、保健学研究科は人々の健康に対する保健システムの観点から健康を探究していきます。

博士前期課程では、保健学の基礎的な分野を扱う「基礎保健学ユニット」、保健学研究の成果を疾患治療に応用する分野を扱う「応用保健学ユニット」、そして地域の問題や国際的な分野を扱う「地域・国際保健学ユニット」の3ユニットが設置されています。学生は、「看護学領域」、「生体情報検査科学学領域」、「リハビリテーション学領域」の専門領域によって更に区分される9つの分野のいずれかに所属しますが、専門領域にかかわらず各ユニットのコア科目の履修が義務づけられており、職種専門領域を横断する教育システムによって保健学を包括的に研究することを当研究科の特徴としています。

その他に、がん看護、慢性疾患看護および母性看護の専門看護師養成コースや、指導的臨床研究コーディネーター管理者養成コースも開設しています。

領域 ユニット	看護学領域	生体情報検査科学領域	リハビリテーション学領域
基礎保健学 ユニット	基礎看護学分野	基礎生体情報検査科学分野	基礎リハビリテーション学分野
応用保健学 ユニット	応用看護学分野	応用生体情報検査科学分野	応用リハビリテーション学分野
地域・国際保健学 ユニット	地域・国際 看護学分野	地域・国際 生体情報検査科学分野	地域・国際 リハビリテーション学分野

教育ポリシー

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

〈人材育成の目標〉

- 1 全人的医療を理解し、高度な専門知識と技術を有する人
- 2 専門分野での教育や研究を実践するための基礎的な能力を有する人
- 3 地域の保健医療・福祉専門職として活動が実践できる人
- 4 国際的な保健医療・福祉分野の活動が実践できる人

〈入学者に求める能力・資質〉

- 1 博士前期課程の学修に必要な学士レベルの知識・技能を有している人
- 2 研究活動に必要な論理的思考力、コミュニケーション能力、語学力を有している人
- 3 保健医療・福祉の分野で高度専門職業人として社会に貢献したいと考える人
- 4 修了後に保健学専攻博士後期課程に進学し、保健学の研究者、教育者又は高度専門職業人を志す人

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

〈教育の目標〉

- 1 全人的医療を理解し、高度な専門知識と技術を修得する教育
- 2 専門分野の教育や研究を実践するための基礎的な能力を育成する教育
- 3 地域の保健医療・福祉専門職として活動が実践できる能力を育成する教育
- 4 国際的な保健医療・福祉分野の活動が実践できる能力を育成する教育

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

〈学位授与の条件・達成度・能力評価の条件〉

- 1 所定の年限在籍し、かつ、博士前期課程に定められた単位を修得した者
- 2 学部における教育・研究を通して得られた保健学に関する知識・技術・研究基礎能力を更に高め、独創的あるいは学際的な研究を進め、博士前期課程論文（修士論文）を作成した者
- 3 幅広い学識と高度な専門性、倫理性を身に付けた者

博士前期課程各ユニットの特色

基礎保健学ユニット

(基礎看護学分野／基礎生体情報検査科学分野／基礎リハビリテーション学分野)

保健学全般に共通する理論、技術の構築、開発と評価、さらに保健管理における諸課題を対象とした研究及び教育を行います。また、分子情報の解析などの検査技術の開発やリハビリテーションの対象となる生体運動・精神機能の分析方法などの基盤的保健学教育及び研究指導を行います。ここで扱う研究は保健サービスの人的あるいは物的な管理の向上、また保健課題に対しての分析方法や、それから得られた情報の有効利用を目指すものであり、WHOの提唱する保健システム強化アプローチの「サービスの提供」や「情報」に合致するものです。

応用保健学ユニット

(応用看護学分野／応用生体情報検査科学分野／応用リハビリテーション学分野)

がん、慢性病、精神疾患や母性・小児疾患の看護やケア、心電図などの生理学的検査や病理診断技術、あるいはスポーツや作業活動に対するリハビリテーションなど保健学研究の成果を疾患・障害に対する治療に応用する分野の研究及び教育指導を行います。病を持つ人の適応、効果的な看護技術や効果的なリハビリテーション技術の検証と開発及び疾患検査法の開発などが含まれます。さらに、高度専門医療人である専門看護師（慢性疾患看護、がん看護、母性看護）及び臨床研究コーディネーター管理者の教育、養成を行います。ここで扱う研究は効果的臨床応用を目指して保健医療の知識・技術を高めるものであり、WHOの提唱する保健システム強化アプローチの「医療技術」に合致するものです。

地域・国際保健学ユニット

(地域・国際看護学分野／地域・国際生体情報検査科学分野／地域・国際リハビリテーション学分野)

地域で生活する個人、家族、集団及び地域社会全体を対象とした保健学知識、技術に関する教育及び研究を指導します。また、国際保健学分野における諸課題を対象とした教育及び研究指導を行います。さらにチーム医療教育機関のネットワークJapan Interprofessional Working and Education Network (JIPWEN) を活用し、国際的多職種連携医療教育を推進します。ここでは地域医療の崩壊に伴う諸課題を、地域から、そして国際社会の観点から研究するものであり、WHOの提唱する保健システム強化アプローチの「保健人材」に合致するものです。またここでは、超高齢化地域の諸課題に対応する老年看護を实践する高度専門医療人である専門看護師（老人看護）の教育・養成を行います。



専門看護師（CNS）プログラム

—— CNSとは？

専門看護師〈Certified Nurse Specialist〉のことで、複雑で解決困難な看護問題を持つ個人、家族及び集団に対して質の高い看護を提供するための専門分野の知識・技術を有する看護師のことです。

—— CNSになるためには？

看護師免許を有し、通算5年以上の実務経験（うち3年間以上は専門看護分野）、ならびに大学院博士前期課程での学修が必要です。その後、日本看護協会の認定審査を受けて合格すればCNSの資格が取得できます。

—— 群馬大学でもCNSの勉強ができるの？

本学は群馬県で唯一CNSコースを有する教育機関であり、がん看護・慢性疾患看護・母性看護の3つのコースがあります。すべてのコースは、専門看護師の発展型であるケアとキュアの融合を目指す高度実践専門看護師教育課程（38単位）を実施しています。CNS認定審査に合格した本学修了のCNSは、病院、診療所、在宅ケア施設等で活動すると共に、大学で講義を行うなど看護学の向上のためにも活躍しています。

CNSについては、こちらをご参照ください
<https://gununi.health.gunma-u.ac.jp/>



がん看護

がんとともに生きる人を支えるがん看護専門看護師を育成します

がん看護学専門看護師コースは、すべてのがん看護の基本となる「緩和ケア」をサブスペシャリティにしています。これまでに31名の修了生を輩出、県内外でCNSとして活躍しています。実習では、本学を修了したCNSの指導を受けた後、自施設での実習でもCNSの指導が継続して受けられるようにしています。本学CNS 1期生の認定と同時に、群馬県がん看護専門看護師連絡協議会を結成し、事例検討、キャリアアップ、情報交換だけでなく、修了生の認定審査申請のサポートも行っています。

また、従来からのe-learningによる講義を推進するとともに、がんプロフェッショナル養成プラン採択事業として、新たにがん治療を支える多領域連携、がんデータ科学推進など専門家、教育リソースの少ない分野の教育を開始しました。2024年度までに、博士前期課程7名、博士後期課程2名の学生が修了しました。

慢性疾患看護

理論と実践を融合させながらパイオニアとして活躍する慢性疾患看護師を育成します

◆本学が目指す慢性疾患看護専門看護師とは？

外来、病棟、在宅などあらゆる治療環境において、慢性疾患とともに生きる人々に対して、健康増進、疾患管理、療養支援などに関する高度な看護を行う人材です。特に理論と実践の融合を目指し、根拠のある看護を行う看護師を育成します。

◆慢性疾患看護専門看護師コースの授業内容は？

糖尿病、腎臓病、循環器疾患など、生活習慣病を中心とした慢性疾患に関する講義・演習・実習を行っています。授業科目の概要は、慢性病者の理解に関する科目、慢性病者のアセスメントに関する科目、慢性病者への支援技術に関する科目、制度や体制に関する科目、治療や療養を支える治療環境整備に関する科目、実習の5本柱になります。

◆本学、慢性疾患看護専門看護師コースの修了生は？

病院施設での主任や教育担当、自分で起業したナース、大学教員など、医療施設や教育の場など様々な場所で生き生きと新たな道をパイオニアとして切り開きながら活躍しています。

母性看護

母性看護スペシャリストとして幅広く活躍する母性看護専門看護師を育成します

本学の母性看護CNSコースは、母性看護のスペシャリストとしてハイリスク妊婦・褥婦への高度なアセスメントと看護、周産期のメンタルヘルスクアを得意とするCNSの育成を目指しています。

本コースは、「周産期母子援助」をサブスペシャリティとし、ケアとキュアを統合して複雑で解決困難な健康問題を持つ母子とその家族への高度な看護実践ができる母性看護CNSを育成する教育プログラムを展開します。教育内容は、①母性看護分野の専門能力を強化する科目（講義：母性看護学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）、②母性看護CNSの実践能力を強化する科目（講義と演習：母性看護学特論Ⅳ・Ⅴ、母性看護学演習Ⅰ・Ⅱ）、③母性看護の現場で母性看護CNSの実践能力を養う科目（実習：母性看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）の3つの柱から構成されています。

本コースの修了生は、メンタルヘルス外来の立ち上げ、ペリネイタルロスの支援、地域保健センターでの活躍など、様々な場で母性看護スペシャリストとしての役割を發揮しています。



専門職養成プログラム

高度専門医療職を目指す学生は、専門看護師（CNS）の他に、実践的保健学データ人材や臨床研究コーディネーター（CRC）管理者養成コース、地域・大学院循環型保健学リーダーの育成プログラムを受講することができます。

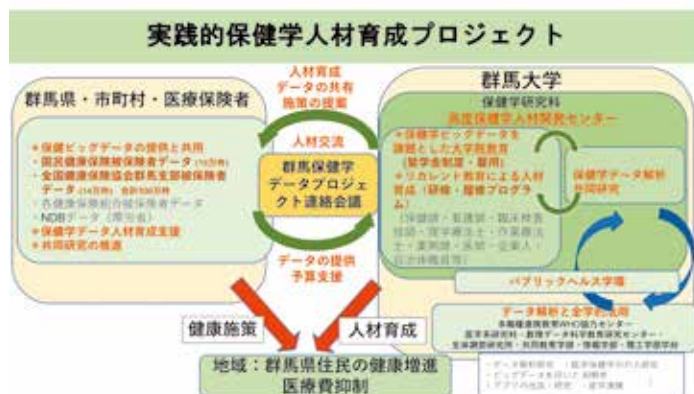
実践的保健学データ人材育成プロジェクト

「データ分析力×専門職」で、データ分析ができる、社会に貢献する「スーパー医療職人材」の育成

保健学研究科は、群馬県と協働して保健学ビッグデータを用いたICT社会実装人材育成を行うことになりました。群馬県から保健に関するデータの提供と予算の支援を受けて、保健学ビッグデータを活用した大学院教育を行います。奨学金制度を作り、プロジェクト課題に月額5万～20万円の支援を行います。保健学ビッグデータとして国民健康保険被保険者データKDB（15万件）を扱うことができます。

データサイエンスとは、データを用いて科学的に社会に有益な知見を引き出すアプローチのことです。保健の分野では、医療・介護・検診・食事などのビッグデータを解析し、住民の健康増進や予防医学に貢献することが求められていますが、十分な活用ができておりません。

我々の目指すは、「データ分析力×専門職」で、データ分析ができる、社会に貢献する「スーパー医療職人材の育成」です。大学院教育では、保健学研究科と数理データ科学教育研究センターと共同で行います。実践的な保健学データを用いた日本初の人材育成の試みです。



臨床研究コーディネーター（CRC）管理者養成コース

臨床研究の高度な知識と実践力を持つ「臨床研究プロフェッショナル」を育成

新しい治療法や予防法を確立するための科学的根拠は、臨床試験をはじめとした臨床研究から得られます。

臨床研究の中核拠点となっている世界の研究医療機関では、臨床研究コーディネーター（CRC）やデータマネージャー（DM）と呼ばれる専門職が活躍して、臨床試験や疫学研究が進められています。質の高い研究を行うには、これら専門職のなかでも高度な知識やスキルを身につけた人材を欠かすことができません。しかし、わが国ではこれらの指導的人材を育てられる教育機関はごくわずかです。群馬大学大学院保健学研究科では、2001年の大学院設置当初から、臨床研究専門職の指導者養成のための講義や演習を行ってきました。また、臨床研究中核病院などと連携して実践的な演習を含む「CRC管理者養成コース」を開講しています。コース履修者には、「臨床研究プロフェッショナル（臨プロ）」の称号が与えられます。

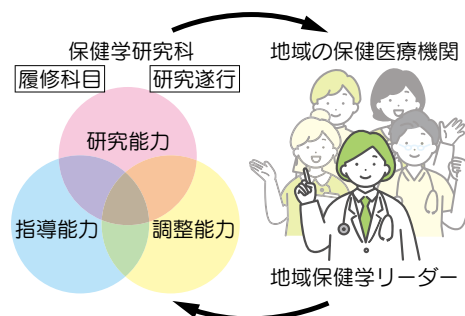
2025年3月までに、26名がコースを修了し、臨床研究プロフェッショナルの称号が授与されています。



地域・大学院循環型保健学リーダーの育成プログラム

地域保健学研究プロジェクトを基盤として、働きながら職場で研究ができる環境を提供します

これまでの教育を発展させ、さらなる地域活動と教育との一体化を目指した新しい大学院教育プログラム「地域・大学院循環型保健学リーダーの育成」を構築し、2007年から3年間文部科学省大学院教育改革支援プログラム（大学院GP）の支援を受けました。2010年度以降も教育プログラムとして継続しています。具体的には、地域の保健医療従事者を社会人学生として受け入れ、所属機関における研究課題を、所属機関と大学との共同で「地域保健学研究プロジェクト」として遂行します。学生はこの課程を通して、研究能力やリーダーとしての能力を体験的に修得し、大学院修了後は「地域保健学リーダー」として、地域保健医療活動の推進や、大学との協働の促進における役割を果たすことが期待されます。2024年度までに54名の学生が本プロジェクトの研究遂行者として認定を受け地域社会で活躍しています。



パブリックヘルス学環(社会健康医学プログラム)

本学環は、研究科等連係課程実施基本組織として、群馬大学の医学系研究科と保健学研究科との緊密な連携のもとで編成する新たな教育課程です。2024年度に修士課程が設置され、博士課程は2026年度設置に向けて申請準備中です。**修士課程を修了時には、Master of Public Health (MPH) が取得できます。**入学試験も医学系研究科及び保健学研究科と連携していますので、それぞれの研究科の教育課程と併願することも可能です。

社会的に注目されている社会健康医学を学ぶ

社会健康医学は、人集団を対象に様々な角度からデータを分析することで潜在的な健康課題を見出し、その実行可能な解決策を策定し、社会に実装し、その効果を検証する学問です。また、我々は新型コロナウイルス感染症のパンデミックを経験したことで、保健所や保健行政の重要性を再認識しました。その結果、公衆衛生の専門知識を持った人材の必要性がクローズアップされています。パブリックヘルス学環の社会健康医学プログラムでは、多様化かつ複雑化した社会における健康課題を見だし、解決策を提案できる能力を修得するために、国際的な公衆衛生大学院設置基準である **Epidemiology (疫学)**、**Biostatistics (生物統計学)**、**Health Service Administration (医療政策学)**、**Social and Behavioral Sciences (社会医学・行動科学)**、**Environmental Health Sciences (環境保健学)** におけるグローバル・スタンダードな公衆衛生学知識を体系的に学びます。

知識・技能の修得だけでなく、課題解決力を発揮する高度専門家の育成を目指す

社会健康医学分野の最先端の研究をリードする研究者の育成、また、多様な価値観や倫理観が行き交う現場で課題解決力を発揮するためのマネジメント力を有する高度専門家の育成など、社会健康医学の両輪である実践と研究のいずれの分野でも活躍できる卓越した能力を持った人材を育成することを目指しています。国際的な公衆衛生大学院設置基準である 疫学、生物統計学、医療政策学、社会医学・行動科学 環境保健学の **5領域を教育専門コア科目**として設定し、関連する科目を連携開放科目として設置します。また共通科目に「**データサイエンス**」を配置することで、ヘルスデータサイエンスに関する知識と技術の修得を可能にし、合わせて「**レギュラトリーサイエンス**」を必須科目とすることで、科学技術により生じるリスクを客観的なデータに基づいて予測・評価する方法や、そのリスクを最小化するための対策について、基本的な考え方を学びます。



パブリックヘルス学環では是非学んでいただきたい方々

- ✓ 各地域の健康に係る諸課題の解決のために公衆衛生学の知識を獲得したい人
(保健所等自治体職員、病院職員、医療保険関係者、産業保健関係者等)
- ✓ 疫学・公衆衛生学の教育・研究職を志向する人
- ✓ 既存の枠組みにとらわれず、自身が持つ問題意識とデータサイエンスの手法を融合させて健康・医療に関する課題を解決したいという強い意欲を持った人
- ✓ 留学生も歓迎します！

博士後期課程の特徴

博士後期課程では、基礎、応用、地域・国際の3教育研究分野によって縦に構成された看護学領域、生体情報検査科学領域、リハビリテーション学領域の3つの領域から構成されており、各領域の教育研究分野において、それぞれ独自の学問体系を確立するための独創的な教育・研究を進めると同時に、それぞれの領域間を有機的に結びつける学際的な研究を展開することができるよう工夫されています。

◎共通コア科目では、教育・研究に必要な原理・方法、国際保健医療推進に必要な能力を修得すると同時に、医学・保健学領域の最先端の情報を得ることで、これからの保健医療・福祉の実践、教育研究の進むべき方向について学修します。

◎専門教育科目では、教育研究分野に即した最新の保健医療・福祉に関する情報を修得するとともに教育・研究の現状と問題点の把握、独創性の高い研究論文精読を通して研究の着眼点や展開法を学修します。

◎特別研究では、それぞれの領域で独創性の高い研究を進めるために必要な研究計画、研究方法、研究結果の解読力及び考察力を養い、与えられた課題について、学生自らが博士号に相応しい研究論文を完成させ、国内外の学会で発表するよう指導します。

看護学領域	生体情報検査科学領域	リハビリテーション学領域
基礎看護学分野	基礎生体情報検査科学分野	基礎リハビリテーション学分野
応用看護学分野	応用生体情報検査科学分野	応用リハビリテーション学分野
地域・国際看護学分野	地域・国際生体情報検査科学分野	地域・国際リハビリテーション学分野

教育ポリシー

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

〈人材育成の目標〉

- 1 保健医療・福祉分野で、独創的あるいは学際的な研究が実践できる人
- 2 保健医療・福祉分野で、高度な教育が実践できる人
- 3 保健学の高度な専門知識と技術を有し、保健医療・福祉分野での指導者となる人
- 4 国際的な保健医療・福祉分野で、指導や教育及び研究が実践できる人

〈入学者に求める能力・資質〉

- 1 博士前期課程レベルの保健医療・福祉に関する専門知識と研究経験を有している人
- 2 グローバルな視点で研究を推進し、その成果を広く発信するために必要なコミュニケーション能力、語学力を有している人
- 3 保健医療・福祉等の分野で研究者、教育者又は高度専門職業人として社会に貢献したいと考える人

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

〈教育の目標〉

- 1 保健医療・福祉分野で、独創的あるいは学際的な研究を実践できる能力を育成する教育
- 2 保健医療・福祉分野で、高度な教育を実践できる能力を育成する教育
- 3 保健学の高度な専門知識と技術を有し、保健医療・福祉分野の指導者を育成する教育
- 4 国際的な保健医療・福祉分野で、指導や教育・研究が実践できる能力を育成する教育

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

〈学位授与の条件・達成度・能力評価の条件〉

- 1 所定の年限を在籍し、かつ、博士後期課程に定められた単位を修得した者
- 2 学部及び大学院保健学専攻博士前期課程における教育・研究を通して得られた保健学に関する知識・技術・研究基礎能力を更に高め、独創的あるいは学際的な研究を進め、博士後期課程論文（博士論文）を作成し、今後も意欲的に研究活動を進めることができる者
- 3 幅広い学識と高度な専門性、倫理性を身に付けた者

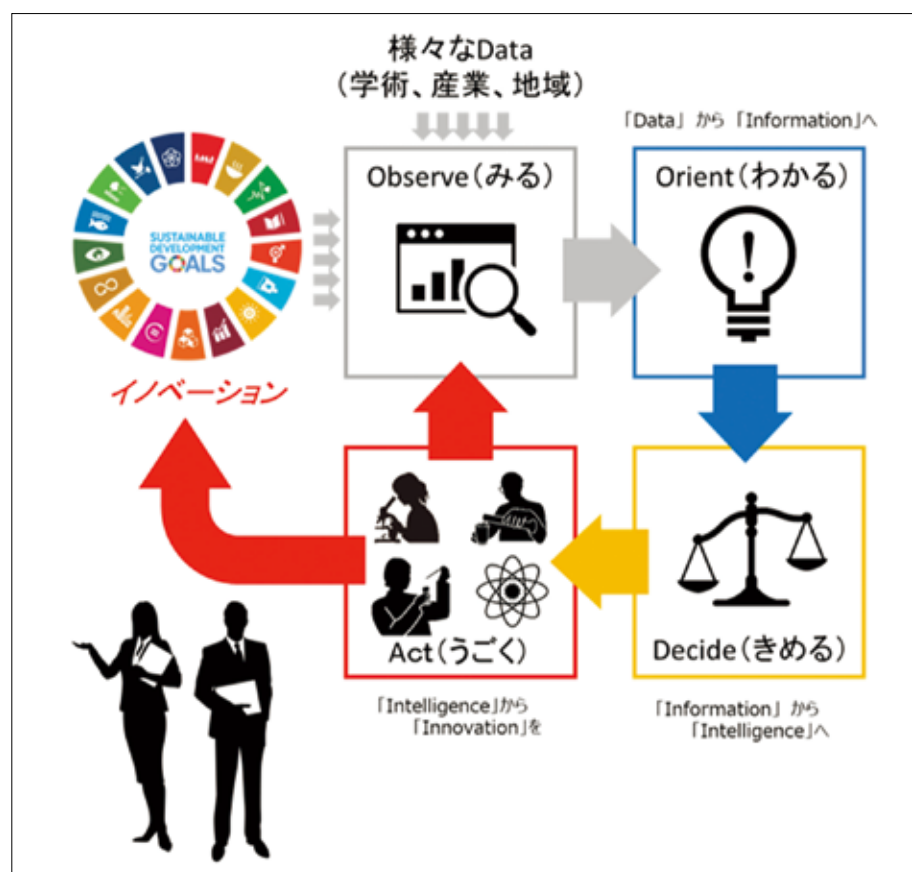
博士後期課程学生に対する助成事業

「次世代Gunma創発的博士人財インダクションプログラム（next-GIP）」について

我が国の科学技術・イノベーションの将来を担う優秀な志ある博士後期課程学生への経済的支援を強化し、博士人材が幅広く活躍するための多様なキャリアパスの整備を進めることを目的に、科学技術振興機構（JST）が次世代研究者挑戦的研究プログラム（SPRING）を実施しています。群馬大学のnext-GIPはこのSPRINGに採択され、令和6年度より運用を開始し、Next-GIPに選抜された学生に対して奨励費（生活費相当）および研究費の支給や、キャリア開発・育成コンテンツの提供を始めとする多様な支援を行っています。具体的には、奨励費として毎月16.5万円、研究費として年間50万円が支給され、さらに、国内外学会参加のための経済的な支援を受けられます。募集人員は群馬大学全体で令和6～8年度の間は毎年度15名前後が予定されています。Next-GIPは博士後期課程学生が安心して研究に打ち込める環境を提供するプログラムです。詳しくは、next-GIPのホームページ<<https://sites.google.com/gunma-u.ac.jp/gu-next-gip>>をご覧ください。スマートフォンをご利用の方は下のQRコードを読み取りアクセスしてください。



next -GIP
ホームページ



【Next -GIPの育成像】

【支援内容】

- ① 研究奨励費(16.5万円/月)
- ② 研究費(50万円/年)
- ③ 海外での学会発表への支援
- ④ トランスファブルスキル等の教育コンテンツ
- ⑤ 学生間交流の機会の提供（リトリートなど）

など多数

但し、在学期間中に年間240万円以上の安定的な収入を得る場合は支援対象外になります。

博士後期課程各領域の特色

看護学領域

（基礎看護学分野／応用看護学分野／地域・国際看護学分野）

看護学領域の特色は、看護学のKey Conceptsである「人間」「生活」「環境」「健康」「看護」を中核におき、個人・家族・集団・地域を対象に、健康の維持増進、疾病とともに生きる力、健康生活障害からの回復、個人・家族・集団のエンパワメントや組織力を高める課題を取り上げ、看護活動の成果を示すことです。また、現代社会は、慢性病（生活習慣病を含む）・がん罹患者や認知症者の増加、少子高齢社会、ストレス関連疾患の増大、在宅療養者の増加、医療の高度化・多様化、グローバル化の加速、ICTの進歩があります。それゆえ看護学領域の使命は、ストレス緩和と健康生活の維持のためセルフケア能力を高める支援、疾病と共に歩む人々のQOLを高める支援、在宅療養者・高齢者・小児とその介護者や養育者への支援、周産期母子看護、地域や海外で展開される保健医療活動の支援についての課題を探究し、未知の現象の解明、新しい看護実践の技術、ケアシステムを開発することです。手法としては自然科学的アプローチと人間学的アプローチを用います。また、多職種と連携する保健医療福祉活動において自らの専門性を発揮するとともに、多職種間のマネジメント、調整、相談、教育に能力を発揮し、協働的研究に参画できる高度実践看護専門職を養成します。

生体情報検査科学領域

（基礎生体情報検査科学分野／応用生体情報検査科学分野／地域・国際生体情報検査科学分野）

本領域では、高度・先端医療の進展に伴って必要とされる個としての生体からの精密な情報収集のために、分子、細胞、組織、機能など広範な情報解析を目的とした教育・研究を行い、新たな解析技術開発能力を養成します。生体情報検査科学領域の学問体系を確立するとともに、新たな検査技術の開発及び医療機器や医薬品の開発に参画します。病態生理及びその解析技術、超音波検査などの新しい画像解析診断技術の開発応用に関しては代表的な生活習慣病である血管・循環系の疾病等を対象とし、その検査法とその応用法について研究します。続いて、生体に生じる種々な疾病による組織学的・細胞学的変化や血液細胞の形態・動態の変化を免疫組織化学的及び分子生物学的最先端の技法を用いて解析し、疾病の解明に応用する能力や新しい検査技術開発のための研究をします。そして、病理学的検査・細胞学的検査、血液学的検査に精通した専門的知識と能力の養成を行います。さらに、新興・再興感染症等と生体防御機構との関わりや病原生物の特殊検査法開発等の教育・研究を行います。また、環境保健の情報から得られた様々な研究成果に基づき、国際・地域の保健対策と評価を実践できる専門職の養成を目指します。更に、開発途上国の国際感染症等の新検査法についての研究や保健対策を実施できる能力を養成します。

リハビリテーション学分野

（基礎リハビリテーション学分野／応用リハビリテーション学分野／地域・国際リハビリテーション学分野）

リハビリテーション学で対象とする障害についてICF（国際生活機能分類）は、身体・精神的機能、身体運動や身体・精神的活動、社会生活への参加・適応に関する問題として分類し、さらに個人因子・環境因子といった背景因子の影響をあげています。リハビリテーション学は、これらの問題分析や基礎・応用的介入理論と技術の開発、地域及び社会環境の分析と対応といった包括的な科学としての特色を持ちます。また、リハビリテーション学の特性から、保健医療・福祉に関わる専門職者を積極的に受け入れ、学際的な研究・教育者を養成することを特色とします。



過去3年間の修了生就職先リスト

2023年

■保健学研究科前期課程

教育

高崎健康福祉大学
前橋医療福祉専門学校
国立大学法人群馬大学

医療・福祉

※病院名は通称で表記

あさくらスポーツリハビリテーションクリニック
伊勢崎市民病院
県立小児医療センター

石井病院

群馬中央病院
前橋赤十字病院
利根中央病院
群馬大学医学部附属病院

岩手県医療局

獨協医科大学病院
佐野厚生農業協同組合連合会

埼玉よりい病院

埼玉医科大学病院

深谷赤十字病院
東京大学医学部附属病院

日本医科大学付属病院

公務

高崎市

企業・法人等

株式会社クライム
積水メディカル株式会社
PHC株式会社
東洋紡株式会社
株式会社アイロムグループ

■保健学研究科後期課程

教育

群馬医療福祉大学
城西国際大学
帝京科学大学

医療・福祉

※病院名は通称で表記

内田病院
公立七日市病院
上武呼吸器科内科病院

2022年

■保健学研究科前期課程

教育

高崎健康福祉大学
群馬医療福祉大学
太田医療技術専門学校

医療・福祉

※病院名は通称で表記

群馬県立がんセンター
老年病研究所附属病院
美原記念病院
上牧温泉病院
(医) 石井会渋川伊香保分院
沼田脳神経外科循環器科病院
せせらぎ病院
群馬大学医学部附属病院
榛名荘病院
岩手医科大学附属病院
東北大学病院
済生会宇都宮病院
埼玉県立病院機構
ウィメンズクリニックふじみ野
新松戸中央総合病院

湘南鎌倉総合病院

(医) 善仁会総合健診センターヘルチェック

企業・法人等

(株)ビー・エム・エル
GEヘルスケア・ジャパン(株)
スタッフサービス・えんじにありんぐ
ミナリスメディカル(株)
ギャノンメディカルシステムズ(株)
東洋紡(株)

■保健学研究科後期課程

教育

群馬パース大学
群馬県立県民健康科学大学
群馬医療福祉大学
新潟県立看護大学
名古屋市立大学
埼玉医科大学
日本医科大学

医療・福祉

※病院名は通称で表記

老年病研究所附属病院
沼田脳神経外科循環器科病院
群馬大学医学部附属病院

2021年

■保健学研究科前期課程

教育

群馬医療福祉大学

医療・福祉

※病院名は通称で表記

伊勢崎市民病院
前橋赤十字病院
老年病研究所附属病院
公立藤岡総合病院
認定NPO法人じゃんけんぼん
群馬大学医学部附属病院
聖マリアンナ医科大学病院
順天堂大学医学部附属順天堂医院

(株)LITALICO

小諸高原病院

江戸川病院

公務

群馬県渋川市

企業・法人等

iSKI Japan(株)
高信化学(株)
シミック(株)
栄研化学(株)
(株)LSIメディアエンス
ユニ・チャーム(株)
(株)BML
(株)ピーシーエルジャパン

■保健学研究科後期課程

教育

群馬パース大学
高崎健康福祉大学
群馬大学
帝京大学医学部

医療・福祉

※病院名は通称で表記

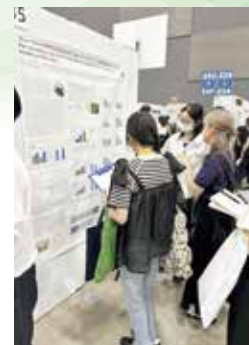
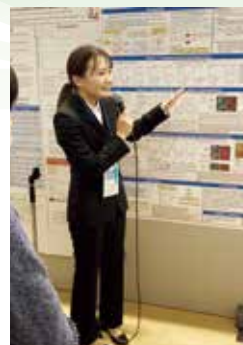
日高病院 (医) 大誠会

詳しくは、群馬大学のこちらのページを
ご覧ください。

<https://www.gunma-u.ac.jp/career/car005/g2079>



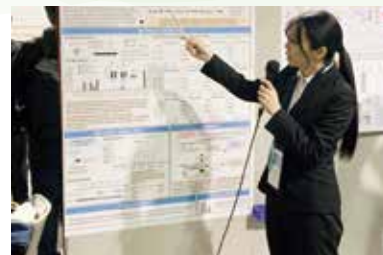
様々な保健学研究科の様子



看護学領域（前期・後期）



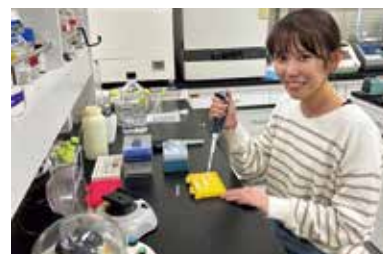
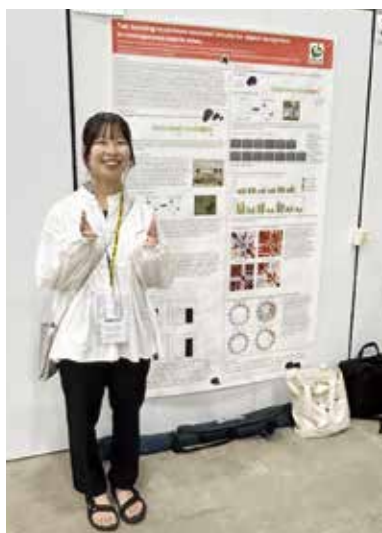
生体情報検査科学領域（前期・後期）



リハビリテーション学理学療法学領域（前期・後期）



リハビリテーション学作業療法学領域（前期・後期）



所属教員と研究テーマ

●博士前期・後期課程特別研究担当教員（指導教員）

○博士前期課程特別研究担当教員（指導教員）

・上記の印がない教員は研究指導を行うことはできませんが、共同で研究活動を行うことは可能な場合があります。指導を希望する教員にご相談ください。

 食健康科学教育研究センター兼任

 パブリックヘルス学環兼任

「*」 2026年3月31日退職予定

「**」 2027年3月31日退職予定

※各教員の担当する課程・研究テーマ等は学生募集要項と異なる場合があります。出願に当たっては、必ず担当教員にご相談下さい。

E-mail address : @以下にgunma-u.ac.jp

看護学領域

基礎保健学ユニット：基礎看護学分野

●小澤 厚志・教授   ozawaa@

- ① 遺伝性腫瘍症、代謝疾患の発症機構に関する分子生物学的研究
- ② 遺伝性疾患患者・家族のマネージメントに関する研究
- ③ 慢性疾患患者の長期管理に関する研究

●近藤 浩子・教授**  hirokok@

- ① マインドフルネス、セルフ・コンパッションに関する研究
- ② メンタルヘルスに関する研究
- ③ 精神看護の実践に関する研究

●上星 浩子・教授  hiroko-jo@

- ① 看護介入における効果の検証
- ② 看護師の臨床判断に関する研究
- ③ 看護教育に関する研究
- ④ 慢性疾患をもつ患者の経験と思いに関する研究

○恩幣 宏美・准教授  sanaki@

- ① 多様性のある看護職のキャリア発達に関する研究
- ② 勤務者のプレゼンティズムに関する研究
- ③ 病棟看護師のコンピテンシーに関する研究

・王 妍蘊・助教

外国人看護師の日本での看護実践におけるやりがいに関する研究

・柏瀬 淳・助教

- ① 在宅療養をする医療的ケア児やその家族を支える看護に関する研究
- ② 内服薬を必要とする小児の服薬管理に関する研究等

・八木原 ひなた・助教

看護師のメンタルヘルスに関する研究

応用保健学ユニット：応用看護学分野

●新井 陽子・教授 yk-arai@

- ① 周産期メンタルヘルスに関する研究
- ② 家族看護に関する研究
- ③ ハイリスク妊産婦支援に関する研究

●大山 良雄・教授 ohyamay@

- ① 糖尿病に関する研究（予防、治療、療養指導など）
- ② 慢性疾患の栄養管理に関する研究
- ③ 慢性疾患のトータルマネジメントに関する研究

●岡 美智代・教授 michiyooka@

- ① 生活習慣病を中心とした慢性病患者におけるセルフマネジメントに関する研究
- ② 慢性病患者のケアに関するエビデンスや費用対効果に関する研究
- ③ 患者教育に関する研究
- ④ 慢性病看護の専門性ならびに慢性疾患看護専門看護師の役割の研究



岡研究室
<https://oka.dept.health.gunma-u.ac.jp/>

●金泉 志保美・教授 kanaizumi@

- ① 慢性疾患や障害をもつ子どもの在宅ケアに関する研究
- ② 子どもの退院支援に関する研究
- ③ 入院中の子どもの日常生活や発達を支援するための研究

●近藤 由香・教授 yukondo@

- ① がん患者の症状緩和に関する研究
- ② がん患者のリラクゼーション法に関する研究
- ③ がん患者や家族の緩和ケアの開発に関する研究

●篠崎 博光・教授 h_shinozaki@

- ① 禁煙支援に関する研究
- ② ウィメンズ・ヘルスならびに周産期医療に関する研究
- ③ 周産期医療における人材育成に関する研究
- ④ 栄養管理・栄養支援に関する研究

○國清 恭子・准教授 kunikiyo@

- ① 出産体験・出産体験の振り返りの支援に関する研究
- ② 周産期のメンタルヘルスに関する研究

○牧野 孝俊・准教授 tmakino@

- ① 父親の育児に関する研究
- ② 慢性疾患患児のストレスに関する研究
- ③ 多職種連携による看護の有効性向上に関する研究

○高橋 さつき・准教授 satsukit@

- ① ICTを活用した患者教育の開発・評価
- ② 慢性期看護に関する研究等



腎臓ケア eラーニング講座
<http://plaza.umin.ac.jp/~jin>



腎臓アプリ (iOS版)
<https://x.gd/bkn18>



腎臓アプリ (Android版)
<https://x.gd/m6lly>

○京田 亜由美・准教授 ✉ akyota@

終末期、治療期のがん患者・家族への緩和ケアに関する研究等

・齋藤 明香・助教

- ① セミオープンシステムに関する研究
- ② 高年妊産婦に関する研究

・瀬沼 麻衣子・助教

がん患者のQOLや治療選択に関する研究等

・塚越 徳子・助教

がんと認知症を併せ持つ患者への看護支援の研究等

・深澤 友子・助教

周産期の母親のメンタルヘルスに関する研究

・松本 光寛・助教 食

- ① 慢性疾患の看護に関する研究
- ② ICTを活用した教育システムに関する研究等

地域・国際保健学ユニット：地域・国際看護学分野

●内田 陽子・教授 ✉ yuchida@

- ① 高齢者ケアのアウトカムを基盤とした評価システムの開発
(認知症ケア、EOLC、包括的BPSDケアシステム® 等)
- ② 地域住民に対するEOLCの意思決定とアウトカムを高めるケア
- ③ ケアマネジメントに関する研究



老年看護学講座
<http://bpsd.jp/>

●大庭 志野・教授 食パ ✉ oba@

- ① 生活習慣病のリスクに影響を及ぼす曝露要因の疫学研究
- ② 国際的な比較検討に資する集団のための尺度開発の研究
- ③ リスク因子の知識と疾病予防行動の研究

●佐藤 由美・教授 パ ✉ satoy@

- ① 自治体における保健師の活動方法と評価に関する研究
- ② 保健師の専門能力、人材育成に関する研究
- ③ 地域におけるケアマネジメント、ケアシステム構築に関する研究

○石川 麻衣・准教授 パ ✉ mishikaw@

- ① 行政保健師の機能・役割および活動の特質に関する研究
- ② 健康づくりの展開方法に関する研究
- ③ 地域における健康危機管理に関する研究

○辻村 弘美・准教授 パ ✉ tujimura@

- ① 在日外国人を対象とした健康やヘルスリテラシーに関する研究
- ② 文化や地域性を考慮した看護ケアや対象理解に関する研究
- ③ 途上国を対象とした看護技術や看護教育に関する研究

・梨木 恵実子・助教

訪問看護、呼吸器疾患やエンドオブライフケアの在宅高齢者に関する研究

●堀田 かおり・助教

地域における高齢者の健康づくりへの支援に関する研究

●松井 理恵・助教

家族や地域での子育て支援等

生体情報検査科学領域

基礎保健学ユニット：基礎生体情報検査科学分野

●大西 浩史・教授 ohnishih@

※博士後期課程のみ受入可

- ① 脳内免疫システムについての研究
- ② 細胞のストレス応答機構についての研究
- ③ 脳老化メカニズムについての研究



大西研究室

<https://biosignal.dept.med.gunma-u.ac.jp/>

●多胡 憲治・教授 ktago@

- ① 低分子量Gタンパク質Rasが制御する発がんシグナルに関する研究
- ② がん、心疾患や糖尿病を制御するGタンパク質シグナルに関する研究
- ③ がん抑制遺伝子産物が制御する細胞内シグナル伝達系に関する研究

●柴田 孝之・准教授 tshibata@

- ① 抗がん剤の副作用を回避する投与前検査法の創生
- ② 機能性蛍光色素の合成と細胞イメージングへの応用
- ③ 生体成分の高感度検出法の開発
- ④ 化学修飾を施した人工核酸の設計・合成および生物学的評価

応用保健学ユニット：応用生体情報検査科学分野

●齊尾 征直・教授 saio@

- ① 細胞診断学における各種細胞所見の包括的理解のための病理・細胞形態学的研究
- ② 核構造・形態の変化に影響を及ぼす因子についての細胞生物学的研究
- ③ 病理組織の各種染色の定量性における画像解析の応用法の研究



病理細胞診研究室

<https://health-pathology.health.gunma-u.ac.jp/>

●齋藤 貴之・教授 tsaitoh@

- ① 血液疾患・腫瘍の分子生物学的研究
- ② DNA修復の研究
- ③ 群馬県と協働した保健学データの解析



血液研究室

<http://ketsuken-gunma.kenkyukai.jp/special/index.asp?id=16646>

●中村 和裕・教授 knakamur@

神経変性疾患の治療法開発

●松井 弘樹・准教授 hmatsui@

- ① 脂肪酸の質的制御による疾患予防・治療へ向けた研究
- ② 心肥大、動脈硬化、肺気腫モデル動物を用いた病態解析
- ③ 生理機能検査を用いた循環器疾患のリスク解析



松井研究室

<http://heart.health.gunma-u.ac.jp/>

●西島 良美・講師

婦人科病変の早期発見、早期診断への貢献を目指す研究

・大川 貴史・助教

群馬県の保健学データを用いた生活習慣病の発症悪化に関連するリスク因子の同定及び機械学習やディープラーニングを応用した疾患発症予測モデルの開発

・後藤 七海・助教

急性骨髄性白血病や多発性骨髄腫等の血液疾患の病態解明

・小林 さやか・助教

組織および細胞診検体を対象とした、癌細胞の核の形状変化に関する研究および画像解析に関する研究

・土岐 明子・助教

糖尿病に関連する凝集体タンパクや肥満に関連する分子の研究

地域・国際保健学ユニット：地域・国際生体情報検査科学分野

●徳舩 富由樹・教授 ✉ ftokumasu@

- ① マラリア、トリパノソーマ原虫内における脂質代謝の研究
- ② 脂質膜の生物物理学
- ③ 高解像度ライブイメージングから解明する細胞内分子メカニズム

●豊村 暁・准教授 ✉ toyomura@

- ① 脳波（EEG）および磁気共鳴画像法（MRI）を用いたヒトの脳に関する神経科学研究
- ② 吃音の神経メカニズムに関する研究
- ③ 発話や上肢、下肢の運動制御に関する研究



豊村暁研究室
<https://brain.health.gunma-u.ac.jp/>

○兼崎 友・准教授 ✉ kanesaki.yu@

- ① バクテリアの環境ストレス耐性の分子機構
- ② バクテリアを用いた実験室進化実験
- ③ バクテリアと他生物との共生成立のメカニズム

・鬼塚 陽子・助教

ヒトと寄生虫との相互作用に関する研究

リハビリテーション学領域（理学療法学）

基礎保健学ユニット：基礎リハビリテーション学分野

●久田 剛志・教授 食 ✉ hisadat@

- ① 呼気ガス分析による炎症性呼吸器疾患の病態解析と呼吸リハビリテーションの効果の評価に関する研究
- ② 呼吸器疾患に対するリハビリテーションの効果についての生理学的評価
- ③ 炎症性呼吸器疾患に対するω3 系脂肪酸由来脂質メディエーターの作用に関する研究

●山路 雄彦・准教授** ✉ tyamaji@

- ① 身体各所から発生する生体信号を解析し、臨床応用する研究
- ② 基本的動作を人間工学的に解明する研究
- ③ スポーツ活動などの研究
- ④ 地域包括ケアシステムに関する研究

・朝倉 智之・助教

三次元動作解析等、基礎的研究

応用保健学ユニット：応用リハビリテーション学分野

●田鹿 毅・教授   tajika@

- ① 運動器疾患における超音波運動器評価研究
- ② 運動器疾患の疫学調査（発症危険因子の検討）研究
- ③ 運動器疾患における理学療法介入に関する多角的評価研究

○小林 匠・教授  kobataku@

- ① 運動器およびスポーツ疾患の病態の解明
- ② 運動器およびスポーツ疾患に対する理学療法評価・介入の開発
- ③ 運動器およびスポーツ疾患の予防法の考案

・佐藤 江奈・助教

変形性股関節症に関する研究

・中澤 理恵・助教

成長期（特に中学生年代）のスポーツ傷害予防に関する研究等

地域・国際保健学ユニット：地域・国際リハビリテーション学分野

●山上 徹也・教授  yamagami@

- ① 認知症高齢者のリハビリテーションに関する研究
- ② 介護予防（集団・個別介入、評価、地域作り）に関する研究
- ③ 地域におけるリハビリテーション（訪問、通所、施設）に関する研究
- ④ 物・人的環境と対象者の生活機能発揮に関する研究



山上研究室
<https://brainreha.jimdofree.com/>

・加藤 大悟・助教

呼吸器疾患のリハビリテーションや評価方法に関する研究
スポーツ障害の予防に関する研究

リハビリテーション学領域（作業療法学）

基礎保健学ユニット：基礎リハビリテーション学分野

●李 範奭・教授  leebumsuk@

- ① 視線行動分析法を用いた高齢者や脳血管障害者の自動車運転能力の評価
- ② 視線行動や眼と手の協調、把持力制御を中心とした上肢機能評価
- ③ 多職種連携が保健医療介護人材の心理的安全性に及ぼす影響の検証

●三井 真一・教授   smitsui@

- ① 異性間の絆による精神神経疾患の予防・回復効果に関する生物学的研究
- ② 精神発達障害に関わる脳内プロテアーゼの機能に関する研究
- ③ 家族の絆がリハビリテーションに与える効果に関する生物学的研究



三井研究室
<https://mitsuilab.health.gunma-u.ac.jp/>

●藤田 行雄・教授  yfujita@

- ① 神経筋疾患の赤外線深度センサーを用いた動作解析
- ② 神経変性疾患の神経病理学的研究

・田中 浩二・准教授

高齢者を対象とした作業療法とチームアプローチに関する研究

・野口 直人・助教

頚椎症や脊椎疾患による物品の把持やリーチ動作などの上肢の運動学的特性に関する研究

応用保健学ユニット：応用リハビリテーション学分野

・下田 佳央莉・助教

- ① Mirror Neuron System の賦活が認知機能に与える影響についての研究
- ② がんのリハビリテーションの効果についての研究

地域・国際保健学ユニット：地域・国際リハビリテーション学分野

●菊地 千一郎・教授 senichiro@

近赤外線スペクトロスコピーを用いた健常人及び精神疾患における認知機能研究

・十枝 はるか・講師

発達障害の2次障害の予防につながる早期支援の在り方に関する研究

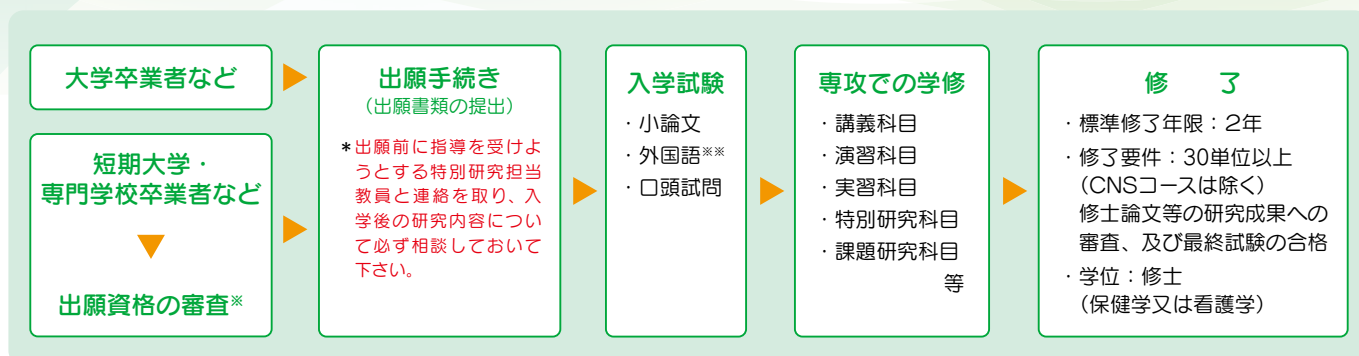
・秋山 稜登・助教

- ① 定量的指標を用いた上肢機能と視覚機能の分析
- ② 運動・感覚・認知プロセスと日常生活活動との関連性の調査

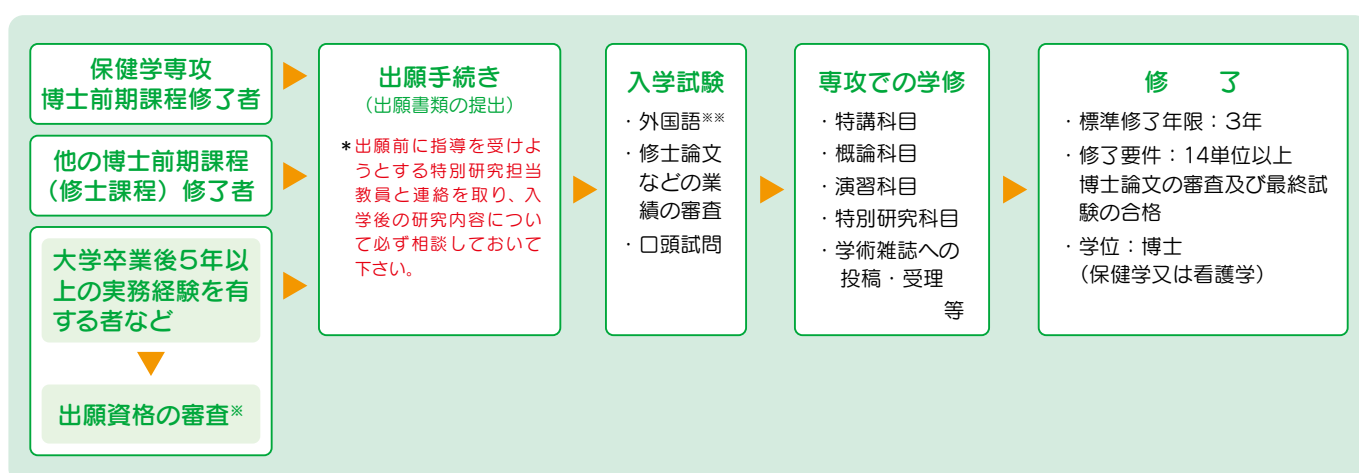


出願から修了までのプロセス

■保健学専攻博士前期課程



■保健学専攻博士後期課程

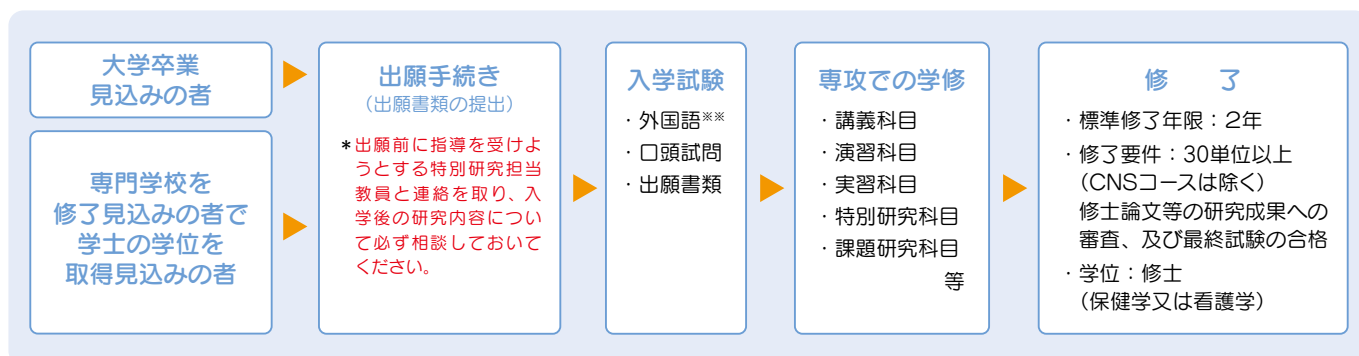


※ 出願資格及び学力試験の詳細は「学生募集要項」をご覧ください。

※※ 出願時にETS発行のTOEFL-PBT (Paper Based Test)、TOEFL-iBT (internet Based Test)、TOEFL iBT® Home Edition、TOEIC Listening & Reading Test (公開テスト)、又はIELTS (Academic Module) のいずれか1つの公式スコア又は公式認定証の提出をもって、外国語 (英語) の筆記試験に代えることができます。詳しくは、「学生募集要項」をご確認ください。

■保健学専攻博士前期課程 推薦入試

2026年4月入学より開始



※ 出願資格及び学力試験の詳細は「学生募集要項」をご覧ください。

※※ 外国語試験は、TOEFL-PBT (Paper based Test)、TOEFL-iBT (Internet Based Test)、TOEFL iBT® Home Edition、TOEIC Listening & Reading Test (公開テスト)、又はIELTS (Academic Module) のいずれか1つの公式スコアを出願時に提出してください。群馬大学卒業見込みの者は、大学内で実施したTOEIC-IPのスコアの提出も認めます。詳しくは、「学生募集要項」をご覧ください。

修学支援・教育支援・修了後の進路

修学のための支援

1. 入学料免除・徴収猶予及び授業料免除・徴収猶予

特別な事情により学費の納入が著しく困難であると認められた者に対して、入学料又は授業料の全額若しくは半額を免除する制度があります。また、所定の納期までに、入学料又は授業料の納入が困難であると認められた者に対して、入学料又は授業料の徴収を一定期間猶予することがあります。

2. 奨学金紹介

本学では、日本学生支援機構等による奨学金制度の申請を受け付けています。

3. ティーチング・アシスタント（TA）及びリサーチ・アシスタント（RA）

大学院生に実習等の教育補助業務に従事してもらい、これに対する手当支給により、経済的な支援を行う制度です。主に博士前期課程ではTA、博士後期課程ではRAとして採用します。

社会人のための教育支援

保健学専攻では保健学研究科設置以前より、職業等を有しながら修学を希望する志願者の学習需要に積極的に対応するため、社会人入試を実施するとともに、長期履修学生制度、昼夜開講制、土日の集中講義による授業を行うことで、職場を辞することなく修了要件を満たし、学位が取得できる教育・研究指導を実施してきました。その結果2024年度博士前期課程では全学生の52%、博士後期課程では81%が主に地域の医療・保健機関で就労している社会人という特徴を有しています。さらに社会人学生の教育支援を行うため、2007年度より「地域・大学院循環型保健学リーダーの育成」プログラムによる地域保健学研究プロジェクトを実施しています。

1. 昼夜開講制、土日の集中講義

開講時間は、昼間：8:50～17:50、夜間：18:00～21:10で土・日曜日にも授業を行うことがあります。ただし、科目によっては土・日曜日は、昼間開講のみになる場合があります。

2. 長期履修学生制度

職業を有している等の事情により、標準修業年限（博士前期課程2年、博士後期課程3年）で修了することが困難な場合、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し課程を修了する制度です。長期履修学生期間の授業料年額は、規程の授業料年額に標準修業年限に相当する年数を乗じて得た額を長期履修学生として許可された在学年限数で除した額となります。

3. オンラインによる遠隔講義

終業後に大学へ登校することなく、自宅や職場で授業を受けられるようにオンラインでの授業を拡充させてつあります。

海外派遣支援

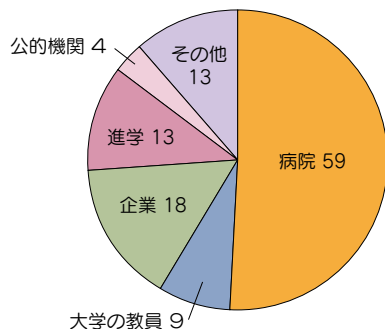
海外での学会発表や海外協定校への派遣プログラムなど、大学院生の海外派遣についても支援制度があります。

1. JASSO 協定派遣奨学金

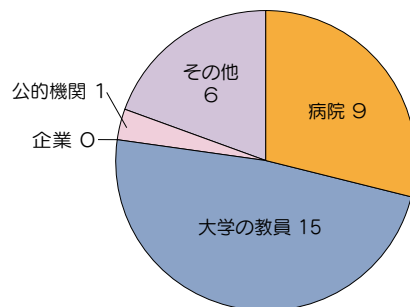
2. 群馬大学学生海外派遣支援事業奨励金

修了後の進路

博士前期課程及び博士後期課程修了後（在学中に就業しているものも含みます）は、保健医療・福祉の教育機関（大学、短期大学など）、医療・福祉機関（群馬大学医学部附属病院、公立病院など）、地域保健・行政機関（群馬県、各市町村など）、民間企業の研究開発部門、医療関連コーディネーター（CRCなど）などに多く就職しています。



2022～2024年度
進路状況（修士）



2022～2024年度
進路状況（博士）

募集人員・入試日程

募集人員

推薦入試（4月入学博士前期課程）

6月実施予定

専攻	ユニット	募集人員
保健学専攻	看護学領域 生体情報検査科学領域 リハビリテーション学領域	30名

〈入学者選抜の方針〉
外国語試験（英語）、口頭試問の結果、及び出願書類を総合して判定します。
群馬大学保健学科、外部のどちらからでも出願は可能です。
入試日程や出願資格については、ホームページの募集要項をご確認ください。

博士前期課程

専攻	ユニット	募集人員
保健学専攻	基礎保健学ユニット 応用保健学ユニット 地域・国際保健学ユニット	20名

〈入学者選抜の基本方針〉
小論文と外国語の学力試験及び口頭試問の結果、並びに志願者が提出した成績証明書及び希望する研究の概要等の出願書類を総合して判定します。また、一般入試のほかに社会人入試及び留学生入試を実施しています。

※推薦入試の入学手続き者が募集人員（30名）に満たない場合は、原則として、上記入試の募集人員（20名）に、満たない人数を加えます。

博士後期課程

専攻	領域	募集人員
保健学専攻	看護学領域 生体情報検査科学領域 リハビリテーション学領域	10名

〈入学者選抜の基本方針〉
学力試験（外国語（英語））、修士課程修了時の提出論文を含む業績又は第一著者として発表した学術論文を含む業績、口頭試問及び学業成績により総合して判定します。また、口頭試問では個別に専門知識及び研究能力に関する試問を行います。

4月入学入試日程（一般・社会人・留学生）

2025年

～7月1日（火）	・ 出願資格審査締切（該当者） （審査結果は2025年7月23日（水）までに通知します） ・ 外国人留学生用試験申込締切
7月7日（月） 7月31日（木）午後3時	検定料*取扱（納付）期間 *検定料 ¥30,000
7月25日（金） 7月31日（木）	出願受付期間（必着）
9月21日（日）	試験実施日
10月10日（金）	合格者発表

※募集人員が上記入試で満たない場合は、第2次募集入学試験（2月頃）を実施します。

10月入学入試日程について（一般・社会人・留学生）

10月入学プログラム	入試日程は、2026年2月頃（第2次募集と同時）を予定
------------	-----------------------------

※必ず学生募集要項をご確認ください。

アクセス・問合せ



問合せ inquiry

群馬大学昭和地区事務部
学務課入学試験係
Admissions Section,
Educational Affairs Office

〒371-8511 群馬県前橋市昭和町3-39-22
3-39-22, Showa-machi, Maebashi, Gunma 371-8511
電話 Phone : 027-220-7797
E-mail : kk-mgakumu5@ml.gunma-u.ac.jp

特別研究担当教員のプロフィールや研究内容の詳細は群馬大学大学院保健学研究科・医学部保健学科のホームページ (<http://www.health.gunma-u.ac.jp>) をご覧ください。



群馬大学大学院保健学研究科では、X (旧 Twitter) による情報発信も行っています。

X @HealthGu



昭和地区 ■JR両毛線前橋駅下車、北方へ4km、バスで約15分

Access to Showa Campus : Get off at the Maebashi station from JR Ryomo Line and take a bus (about 15min)

乗車場所	バス行き先案内表示	下車停留所	所要時間	備考
前橋駅北口 JR両毛線 2番乗り場	・ 群大病院行 ・ 群大病院経由群馬大学荒牧行 (南橋団地経由含む)	群大病院	約15分	関越交通バス
	・ 渋川駅行 (群馬大学荒牧経由含む) ・ 渋川市内循環渋川駅行 (群馬大学荒牧経由) ・ 小児医療センター行 (群馬大学荒牧経由含む)	群大病院入口	約13分 徒歩6分	関越交通バス
	・ 前橋駅行 (渋川市内循環、群馬大学荒牧経由含む)	群大病院入口	約30分 徒歩6分	関越交通バス

※JR群馬総社駅及び新前橋駅からは、公共交通機関がありませんので注意してください。公共交通機関の運行状況は必ず最新の情報を確認し、集合時間までに到着できるよう十分に余裕を持って試験場へお越しください。



群馬大学
GUNMA UNIVERSITY

群馬大学大学院保健学研究科
保健学専攻